

### 資料3：データクリーニングと検票・入カールール

#### ■ サンプルの除外

以下のサンプル（計12サンプル）はふまじめな回答とみなし、回答全体を無効とした（分析対象から除外）。

- ① 回答時間が極端に短いサンプル
- ② モニターの登録属性と回答内容が異なるサンプル
- ③ 表形式の回答が特定の数字に偏っているサンプル

#### ■ 数値データのクリーニング

Q番号	検票ルール
本調査	
Q4（顧客数）	原則として「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答は無回答として処理。 ただし、Q3（事業所）が「1.本社・本部」もしくは「2.支店・支社」、かつ、PQ3（職位）が「2.部長クラス」もしくは「3.部次長クラス」の場合は有効回答として存置。 なお、「3.法人・団体に訪問して法人顧客（関係する担当者）に営業する」場合の顧客数に関する回答のうち、上記条件に該当するものの、極端に数値が大きい3サンプルについては、Q1（商品の内容）、Q37（勤務先の従業員数）、PQ4（正社員の営業職数）も考慮のうえ、無回答として処理。
Q14（過去1年に退職した正社員の営業職の人数）	原則として「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答は無回答として処理。 ただし、PQ4（正社員の営業職数）よりも数値が小さい場合は有効回答として存置。
Q27（派遣社員の営業職の人数）	原則として「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答は無回答として処理。 ただし、Q3（事業所）が「1.本社・本部」もしくは「2.支店・支社」の場合は有効回答として存置。
Q31（請負契約や委託契約で活用している営業職の人数）	原則として「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答は無回答として処理。 ただし、Q3（事業所）が「1.本社・本部」もしくは「2.支店・支社」の場合は有効回答として存置。
Q33（年齢）	検票のうえ、「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答も有効回答として存置。
Q38（勤続年数）	検票のうえ、「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答も有効回答として存置。
Q39（営業組織の在籍年数等）	検票のうえ、「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答も有効回答として存置。
Q40（営業経験年数）	検票のうえ、「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答も有効回答として存置。

Q番号	検票ルール
予備調査	
PQ4	<p>原則として「平均値±（標準偏差×2）」の範囲外に分布している回答は無回答として処理。</p> <p>ただし、Q3（事業所）が「1.本社・本部」もしくは「2.支店・支社」の場合は有効回答として存置。</p> <p>なお、正社員、正社員の営業職、正社員の女性の営業職、非正社員の営業職のいずれかの人数を無回答として処理した場合は、他の人数も無回答とみなす。</p>

#### ■入力ルール

① 複数回答の入力	<p>「はい：1」、「いいえ：0」</p> <p>※「無回答」はなし</p>
② 単数回答の入力	<p>選択肢番号</p> <p>※「無回答」はなし</p>
③ 数値記入欄の無回答	<p>「-9」</p> <p>※検票ルールに基づき「無回答」として処理した場合</p>
④ 非該当	<p>ブランク</p>